

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：社会福祉諸費

事業名 災害時専門ボランティア受入推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 福祉人材係 電話番号：058-272-1111(内3447)

E-mail：c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,500 千円 (前年度予算額： 5,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,500	2,750	0	0	0	0	0	0	2,750
要求額	5,500	2,300	0	0	0	0	0	0	3,200
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和2年7月豪雨等の大規模災害において、災害ボランティアセンターから派遣されるボランティアに加え、多様な専門的な技術や知識を持つ専門ボランティア(NPO等)が大きな役割を果たしており、その重要性はますます高まっている。

しかし、市町村や市町村社会福祉協議会から専門ボランティアとどのように連携したらよいかわからないという意見があるなど、連携は不十分である

(2) 事業内容

専門的な技術や知識のある専門ボランティアをコーディネートできる人材の設置及び研修、災害時に対応できるNPO等向けの研修を開催するための以下の事業に対して補助を行う。

- ①災害ボランティアコーディネーターの設置
- ②県外の被災地での体験型研修の実施
- ③災害時専門ボランティア受入研修の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

生活困窮者就労準備支援事業費等補助金の補助対象事業

- ・生活困窮者支援等のための地域づくり事業（国庫補助率1/2）
- ・災害ボランティアセンター設置運営研修等支援事業（国庫補助率1/2）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,500	①災害ボランティアコーディネーターの配置 ②県外の被災地での体験型研修の実施 ③災害時専門ボランティア受入研修の実施
合計	5,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第四期県地域福祉支援計画

第4章 施策の内容

3 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保及び福祉従事者に対する研修体制の整備

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

大規模災害発生時に、迅速な災害ボランティア受入体制を整えるため、県と市町村及び関係団体との間で災害対策に関する連携の強化に資する協議会を実施するとともに、災害ボランティアセンター運営支援者向けの研修を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① 災害時専門ボランティア受入研修の参加者	0	58	84	100	100	58%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<p>県内5圏域において、平時の情報共有会議を実施し、専門ボランティア間の顔の見える関係の構築を図った。 また、コーディネーター向けの研修を実施し、その資質向上を図った。</p>
	指標① 目標：100 実績：58 達成率：58 %
令和4年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

令和6年度当初予算にて追加

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	大規模災害発生後の被災地では様々なボランティア団体が支援に駆けつけ被災者支援活動を展開している。これらの団体をコーディネートすることで被災者と支援者をスムーズにつなげることができる。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	災害時専門ボランティア受入研修(R3は平時の情報共有会議)の参加者は、令和3年度の目標値を上回っており、期待どおりの成果をあげている。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 1	補助金交付先や、関係団体と密に連絡をとり、効率的に事業を実施できるよう努めている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 多様な専門ボランティアをコーディネートできる人材が不足している。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 南海トラフ巨大地震や台風など、今後の災害に備え、引き続き、専門ボランティアの受入体制を推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	